

2021年度

不二サッシグループ 決算説明資料

2022年5月12日

不二サッシ株式会社

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

2022年3月期の期首より収益認識に関する会計基準等を適用しております。

前年度のデータについては、収益認識に関する会計基準等適用前の旧基準で開示しております。

I. 2021年度 決算の概要

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
非木造建築物着工床面積(万㎡)	7,514	7,011	6,452	6,967
前年比(伸び率)	-2.8%	-6.7%	-8.0%	8.0%
新設住宅着工戸数(万戸)	95.3	88.4	81.2	86.6
前年比(伸び率)	0.7%	-7.3%	-8.1%	6.6%

※実績は国土交通省 建築着工統計調査より

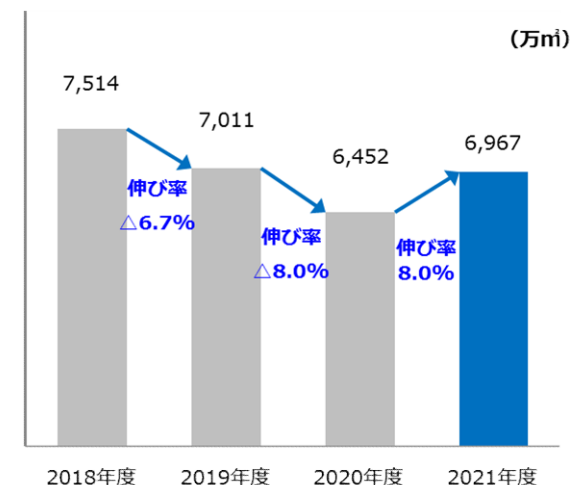
■ 非木造建築物着工床面積

長期的な見通しでは減少傾向にあるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で減少した需要が回復し、事務所、工場及び倉庫を中心に増加したため、全体で増加となった。

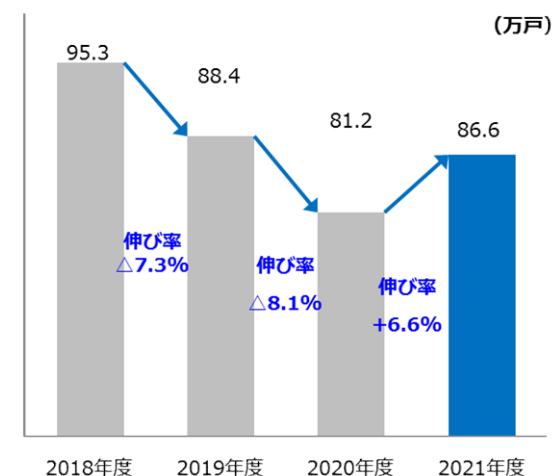
■ 新設住宅着工戸数

マンションは減少したものの、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着き、貸家を中心に回復し、2021年度については前年比で増加となった。

非木造建築物着工床面積(4-3月)



新設住宅着工戸数(4-3月)



2021年度 決算の業績について



【連結】

(百万円)

	2020年度		2021年度						
	実績		実績		前年同期比		公表数字	公表比	
		売上比		売上比	増減額	%		増減額	%
売上高	92,396		90,430		△1,966	97.9	103,000	△12,569	87.8
営業利益	534	0.6	885	1.0	351	165.7	700	185	126.5
経常利益	898	1.0	1,101	1.2	202	122.6	900	201	122.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	572	0.6	-3,326	-3.7	△3,899	-	180	△3,506	-

※売上について 収益認識会計基準等の適用初年度にあたり売上の一部に影響がありました。

- 売上は減少したが、損益面ではアルミ地金および諸資材価格の高騰の影響を受けながらも、営業強化や製造原価低減、経費の削減等により営業利益を確保
- 形材外販事業セグメントの減損損失計上により当期純利益は大幅に減益
(詳細はP5をご参照下さい。)

■ 形材外販事業セグメント固定資産等減損損失

形材外販事業において、原材料費主要諸資材の高騰等事業環境の急速な悪化により、収益性が低下し、事業用資産から得られる将来キャッシュフローが帳簿価額を下回ったことから、当該資産の帳簿価額を回収可能額まで減額し減損損失として35億6千万円を特別損失に計上しております。

セグメント別 売上高・営業利益

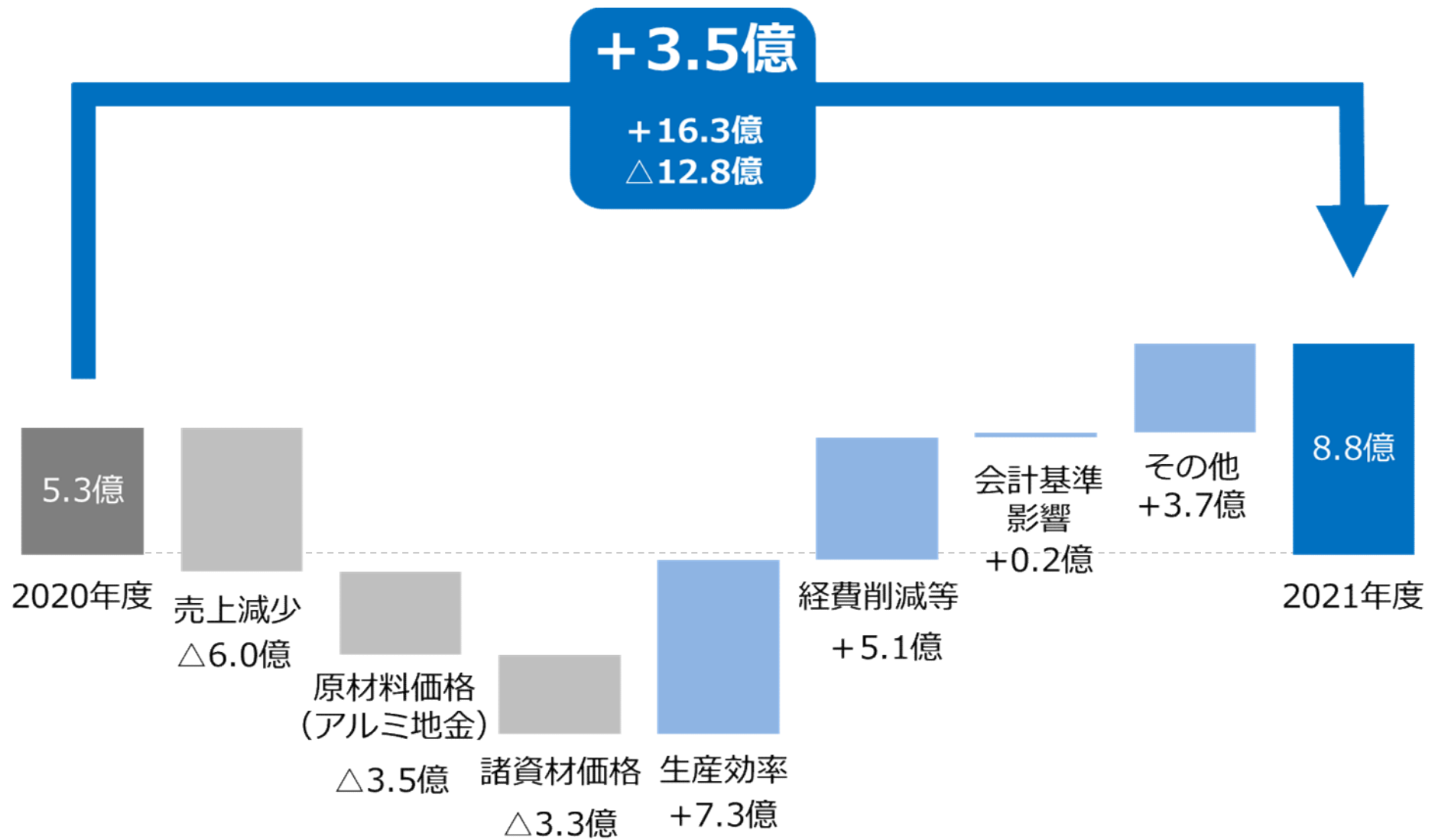
【連結】

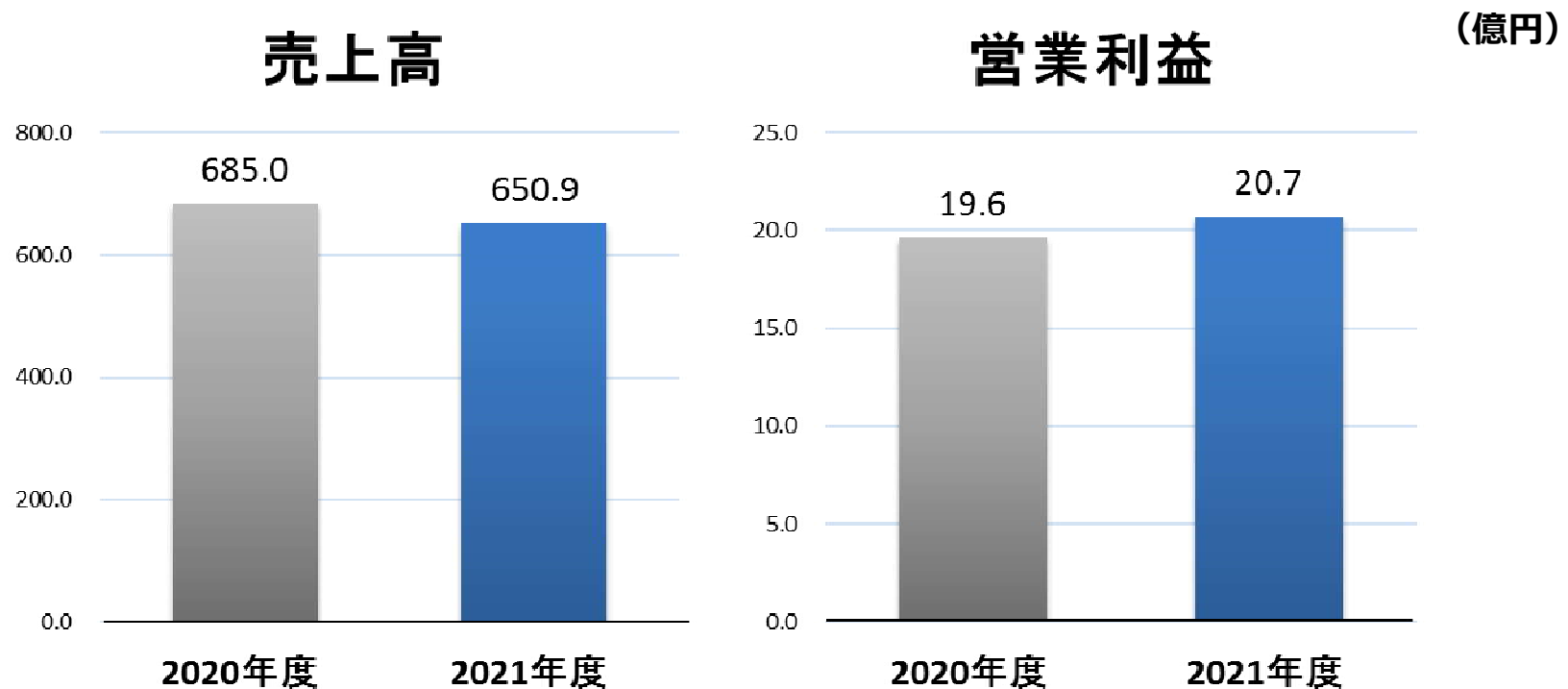
(百万円)

	売上高			営業利益		
	2020年度	2021年度		2020年度	2021年度	
	実績	実績	対前年比	実績	実績	対前年比
建 材 事 業	68,509	65,097	95.0% △ 3,412	1,969	2,077	105.5% 108
形 材 外 販 事 業	18,491	20,045	108.4% 1,554	-741	-597	- 143
環 境 事 業	3,214	2,809	87.4% △ 404	251	280	111.5% 28
物 流 事 業	1,813	2,222	122.6% 408	337	373	110.8% 36
そ の 他 事 業	367	254	69.3% △ 112	154	116	75.4% △ 37
(消去又は全社)	-	-	-	(1,436)	(1,364)	71
合 計	92,396	90,430	97.9% △ 1,966	534	885	165.7% 351

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識基準に関する会計基準」等を適用しております。
2020年度実績に関しては、旧基準ベースで算出した金額を表示しております。

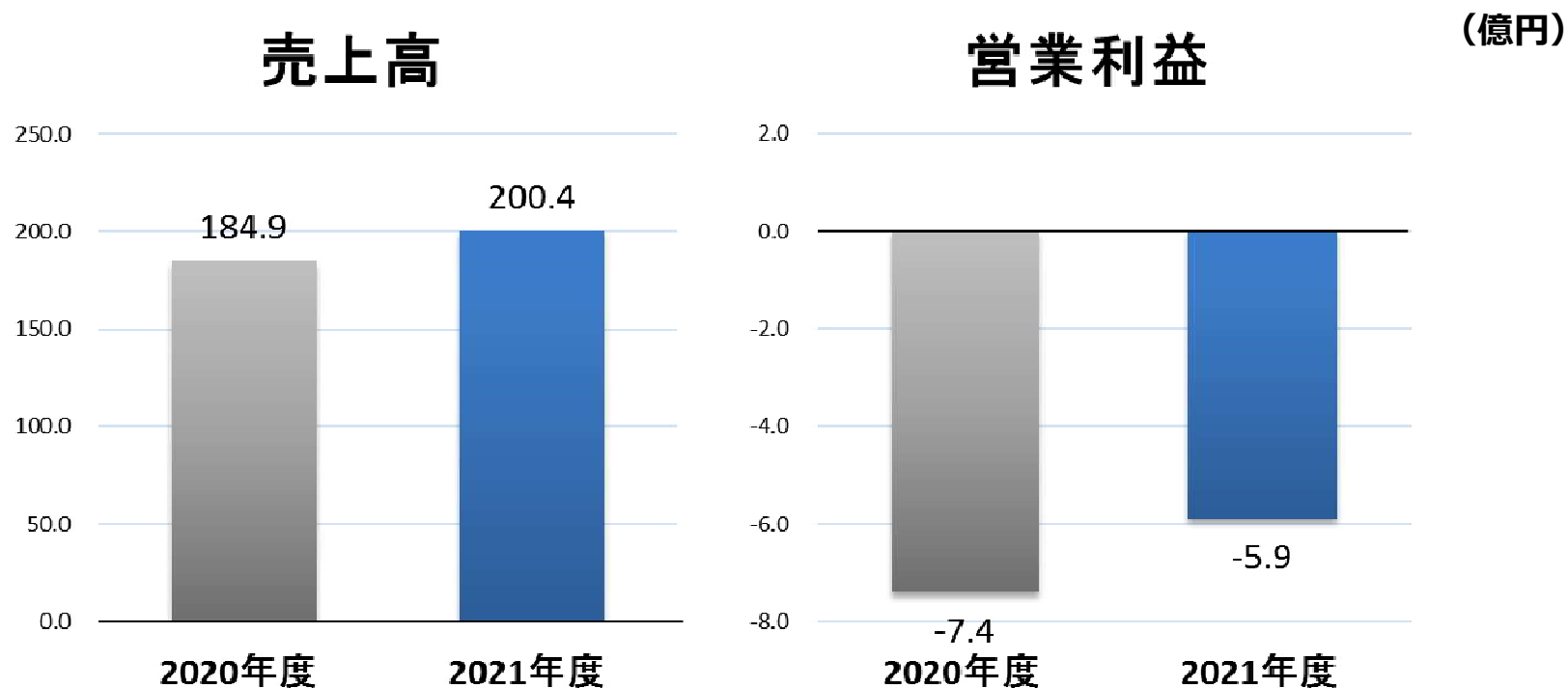
営業利益増減分析（前年比・要因別）





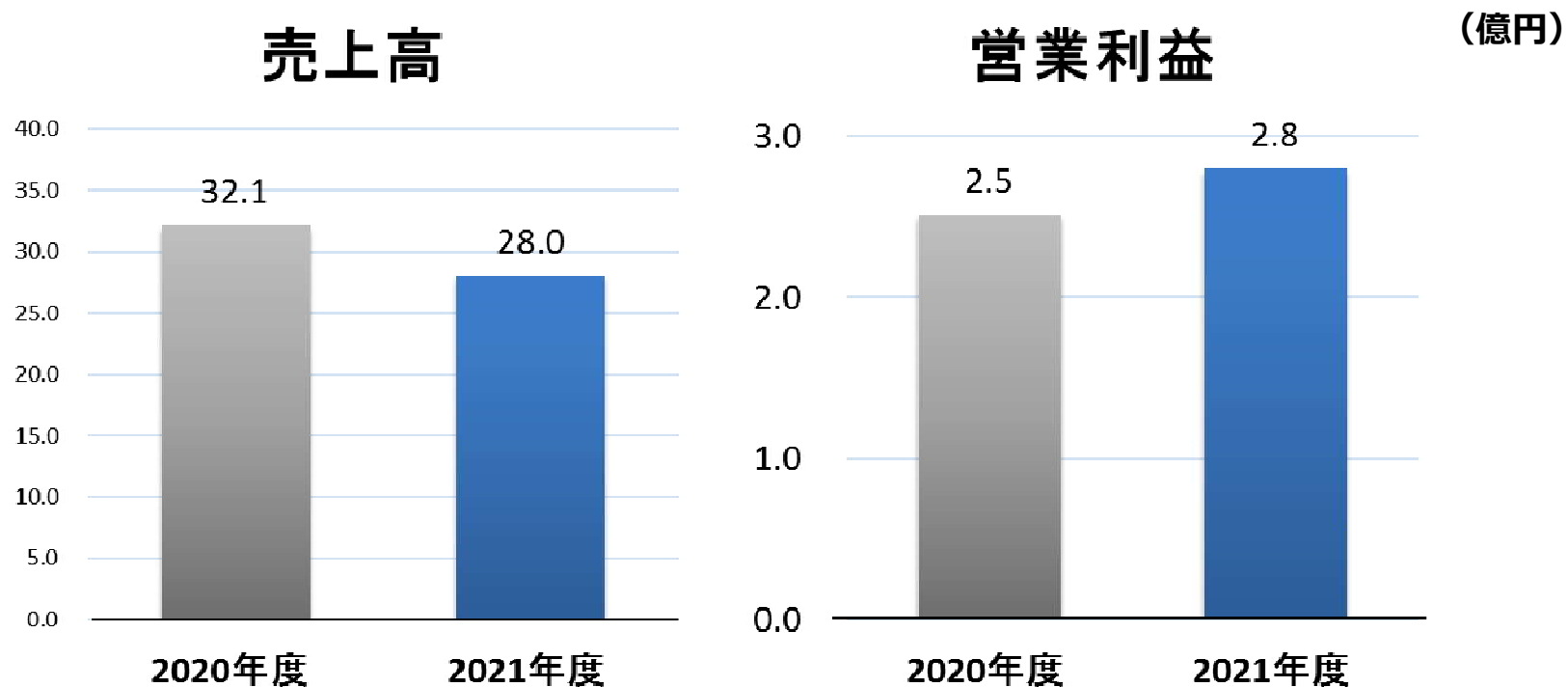
■ 売上高・営業利益

売上は減少したものの、プロセス管理の徹底等の営業強化および製造原価低減により利益を確保。



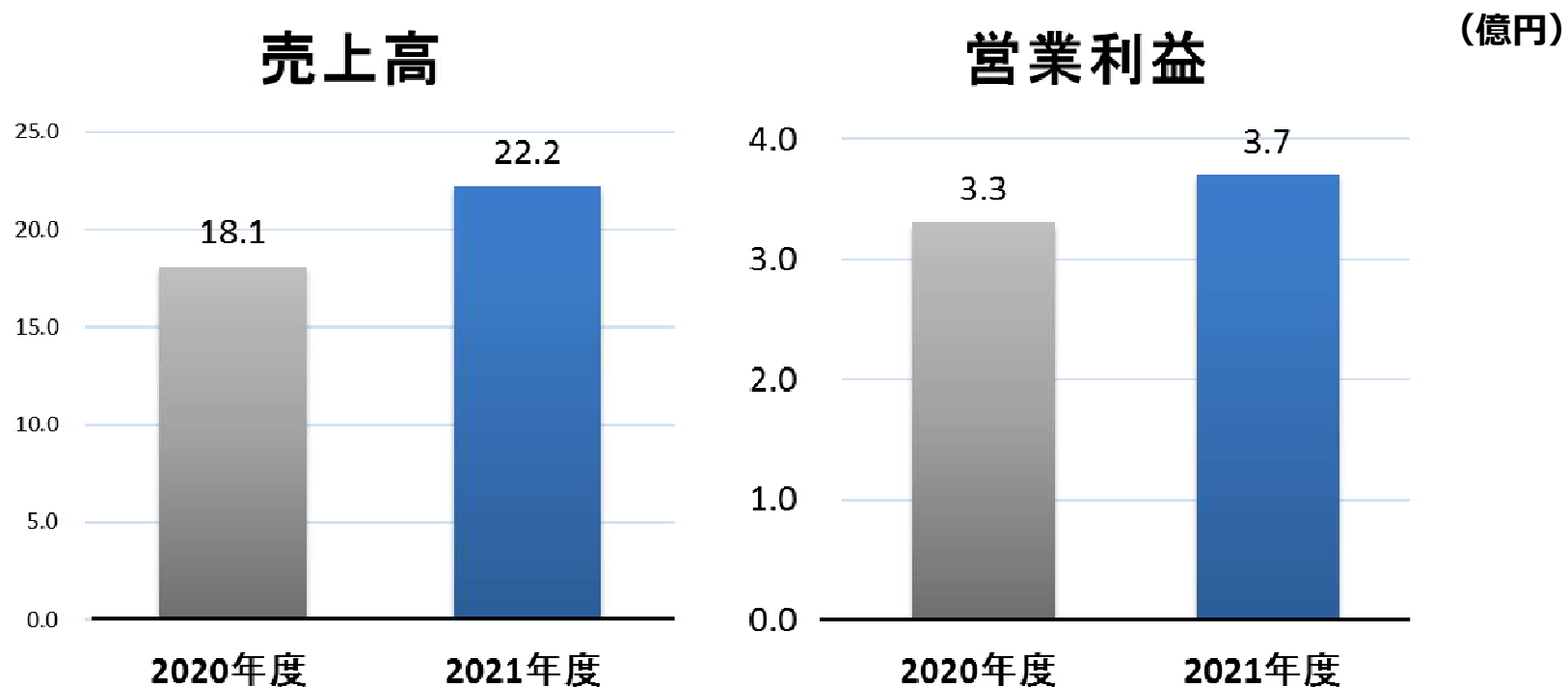
■ 売上高・営業利益

アルミ地金価格の高騰により売上は増加。依然として厳しい事業環境が続いており、生産体制の見直しや不採算取引の改善等に取り組むも諸資材価格高騰の影響を大きく受け、営業利益は大幅な赤字。



■ 売上高・営業利益

新規プラント工事の工期延期の影響により売上は減少したものの、メンテナンス部門の営業強化により利益を確保。



■ 売上高・営業利益

燃料費高騰により輸送コストが増加したものの、新規顧客開拓、営業倉庫新設による保管事業の強化等により増収増益。

連結貸借対照表要旨



(百万円)

		2021年 3月末	2022年 3月末	前期末比			2021年 3月末	2022年 3月末	前期末比	
流動資産計	現金及び預金	16,583	14,523	△ 2,060	負債計	仕入債務	17,998	20,274	2,276	
	売上債権	18,911	26,759	7,847		短期借入金・社債	17,432	13,356	△ 4,075	
	たな卸し資産	16,606	7,478	△ 9,127		その他流動負債	11,605	5,353	△ 6,251	
	貸倒引当金	-646	-701	△ 54		長期借入金・社債	5,648	9,111	3,462	
	その他	1,519	1,368	△ 151		その他固定負債	17,724	17,154	△ 569	
	流動資産計	52,974	49,426	△ 3,547		負債計	70,409	65,250	△ 5,158	
	固定資産計	建物及び構築物	7,946	7,220		△ 725	株主資本	19,823	16,210	△ 3,612
		土地	13,729	13,328		△ 400	その他の包括利益累計額	1,316	1,678	362
		その他有形固定資産	7,773	4,826		△ 2,947	非支配株主持分	153	175	22
		投資有価証券	2,879	2,865		△ 13	純資産計	21,293	18,065	△ 3,228
貸倒引当金		-935	-877	58	負債・純資産計	91,702	83,315	△ 8,387		
その他固定資産		7,333	6,524	△ 809						
固定資産計		38,728	33,888	△ 4,838						
資産計	91,702	83,315	△ 8,387							

財務状況



(百万円)

	2021年3月末	2022年3月末	前期末比
利益剰余金	17,307	13,694	△3,612
自己資本	21,140	17,889	△3,250
自己資本比率 (%)	23.1	21.5	△1.6
有利子負債	23,333	22,786	△547
1株あたり純資産 (円)	167.53	141.77	△25.76
R O E (%)	2.8	-17.0	△19.8
E P S (円)	4.54	-26.36	△30.91
期末配当 (円)	1.0	1.0	0.0

	2021年3月末	2022年3月末	前年同期比
税金等調整前当期純利益	1,048	-2,606	△3,654
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,487	442	△3,045
投資活動によるキャッシュ・フロー	-2,351	-1,506	844
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,086	-1,269	△2,356
現金及び現金同等物の期末残高	15,886	13,560	△2,326

受注状況・設備投資他

受注高・受注残高の推移 (百万円)

	2020年度	2021年度	前年同期比
受注高	53,980	61,219	7,239
受注残高	53,698	59,094	5,396

設備投資及び減価償却費の推移 (百万円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
設備投資額	3,122	2,356	2,946	2,224	1,688
研究開発費	1,469	1,677	1,732	1,505	1,303
減価償却費	2,280	2,215	2,206	2,293	2,203

従業員の推移 (人)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
従業員数	2,948	3,002	3,078	3,055	2,970
増 減	+2	+54	+76	△23	△85

Ⅱ. 2022年度の業績予想

2022年度 連結通期業績予想について



【連結】

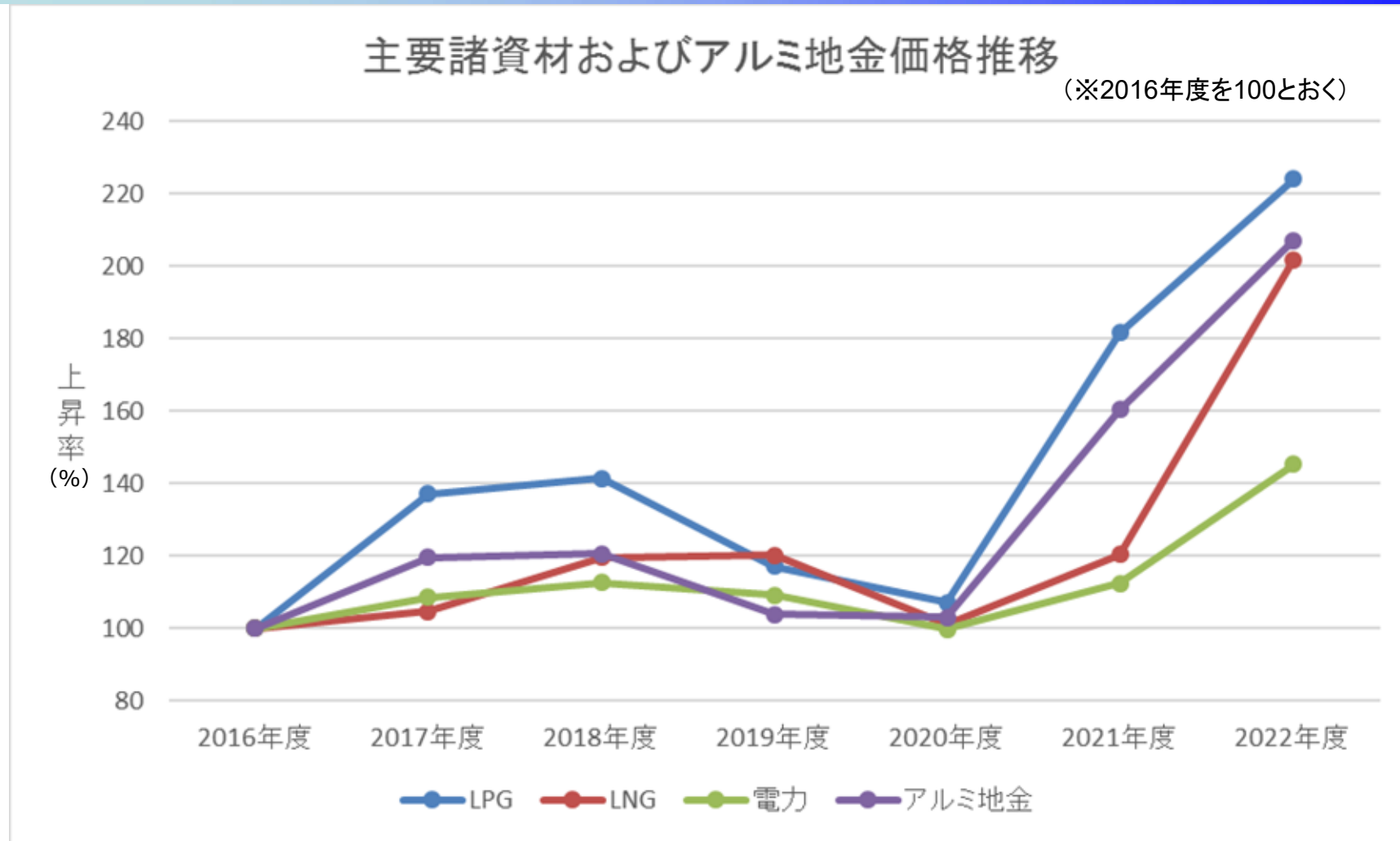
(百万円)

	2021年度		2022年度			
	実績		予想		前年同期比	
		売上比		売上比	増減額	%
売上高	90,430		98,000		7,569	108.4
営業利益	885	1.0	760	0.8	△125	85.8
経常利益	1,101	1.2	660	0.7	△441	59.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	-3,326	-3.7	377	0.4	3,703	-

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識基準に関する会計基準」等を適用しております。

- 継続的な営業強化や経費削減等に取り組むものの、諸資材およびアルミ地金高騰等の影響を受け、増収減益を見込んでおります。

2022年度 連結通期業績予想について（参考）



- 地政学的リスクの影響により2022年度はアルミ地金および諸資材価格が大幅に高騰する見込

IV. トピックス

業界初となるISO/IEC17025の認定を取得

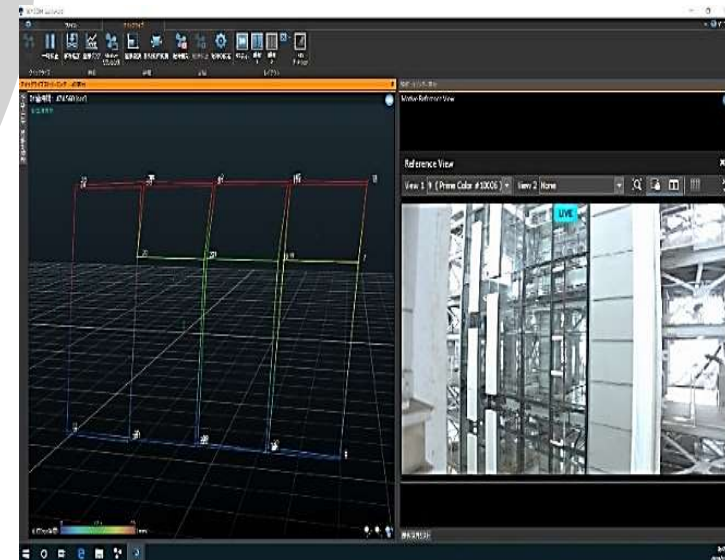
2022年3月30日

不二サッシ株式会社はカーテンウォールの性能を測定する「**光学式モーションキャプチャ法**」による試験方法を独自開発しました。従来の性能試験に比べ耐風圧や耐震などの性能を高精度で測ることができ、2021年12月には同試験法としては**業界初となるISO/IEC17025**を取得しました。

モーションキャプチャは、従来使用している接触式の電気式変位計では測定することが困難な「動きの速いもの」「複雑な形状」や「柔らかいもの」まで変位量を測定することができます。

また、3次元の測定の場合、計算により求めなければならなかったことが、モーションキャプチャでは容易に且つ高い精度で測定することが可能です。

このようにカーテンウォールの耐風圧性、耐震性の試験を行う際は、お客様のご要望にあわせ、今まで以上にさまざまな測定条件に対応し検証いたします。



光学式モーションキャプチャ法により試験体の動きを高い精度で可視化し解析・分析が可能になりました。

SBT認定取得に向けコミットメントレターを提出

2022年4月13日

不二サッシ株式会社は、パリ協定が定める目標に科学的に整合する温室効果ガスの排出削減目標「Science Based Targets (SBT)」を認定する機関「SBTイニシアティブ (SBTi)」に対し、コミットメントレターを提出し、2年以内にSBT認定取得を目指すことを表明しました。

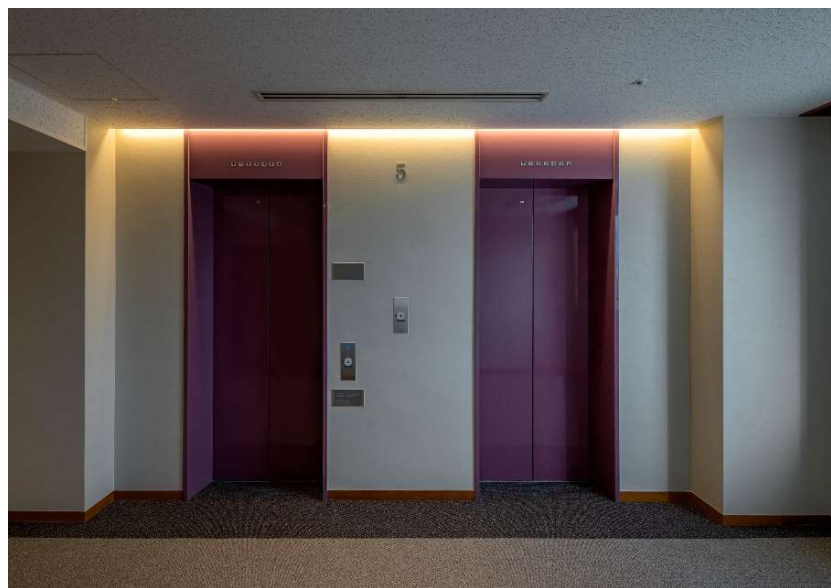
当社は2022年度からの中期経営計画のメインメッセージとして、「**サステナブルな社会実現への貢献『選ばれる企業グループへ』**」を掲げ、環境負荷を軽減するものづくりやプロセス革新を続けることで持続可能な社会の実現への貢献を目指しています。

具体的には、事業活動に伴うCO₂排出量を削減して、カーボンニュートラルの実現に寄与すべく、省エネ・省資源活動、照明のLED化、アルミリサイクル材の活用、グリーン調達などを実施しています。

今後は、パリ協定の「地球の気温上昇を産業革命前と比べて1.5°Cに抑える」という目標達成を満たす目標を設定し、その実現に向けて取り組んで参ります。

『アルビーム・インテリア』のご紹介

建材メーカーならではの視点により企画・開発した光建材「アルビームインテリア」は、昨年5月の発売以来、多くのお客様に高い評価を頂いております。
ホテルやオフィスの廊下、洗面所や壁面など、簡単に美しい間接照明や意匠照明が作り出せることに加え、工期の短縮や省力化が出来、これまで設置が不可能とされていた部分にも、間接照明の設置を可能としております。



デジタル制御技術を活用した『アルビーム・ムーブ』のご紹介

『アルビーム・ムーブ』第一号案件が完成いたしました。
大阪の繁華街の大通りに面した商業ビル(ミヤプラザ)に、桜吹雪やオーロラ、クリスマスなど季節毎に異なる動画コンテンツをフルカラーにて演出します。



桜吹雪



オーロラ



クリスマス

窓から夢をひろげていきます
不二サッシ

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おきください。